

人文学基礎（人文学と対話）第4回

「人文学は役に立つのか」 現代における人文学の課題

主担当教員：高橋 綾（人文学林 講師）

副担当教員：火曜 菅原裕輝先生（人文学林）木曜 西村高宏先生（人文学専攻）

TF：火曜 陳凱歡さん（言文） 水曜 村井勇輝さん（外国学）

TA：火曜 チョスンヨンさん（日本学）水曜 春川千潮さん（言語文化学）

木曜 阿部悠太さん（人文学）・泊慎太郎さん（日本学）

授業の目的と内容

【目的】

現代における人文学の課題について、それぞれの人が立ててきた問い（問題意識）を聴きあい、お互いの語りや考え方から学び合う

【内容】

1. はじめのミニワーク “発声練習” (15分)
2. 今日のワークの説明 (20分)
3. 対話型ワーク④
現代の人文学における課題について「言いっぱなし聞きっぱなし」の形式で対話と探究を行う (50分)
4. ふりかえりシートの提出および授業に関する連絡 (5分)



対話型ワーク④

現代の人文学における課題について

「言いっぱなし聞きっぱなし」の

形式で対話を行う

「言いつぱなし聞きっぱなし」さまざまな他者の語りを聴くことを通じた学び

- ◆ アルコール依存症の人の回復のための自助グループ、AA (Alcoholics Anonymous) から生まれた、ミーティング・話し合いの方法。今日のワークの形式はこの方法をやや変形したものです。
- ◆ クロストークや議論は行わず、それぞれの参加者が話したいこと、他の人とシェアしたいことを順番に話していくだけであるが、シンプルな方式であるからこそ、さまざまな他者の語りを「聴くことを通じた学び・気づき」の体験ができる
- ◆ 「問答」とならんで「言いつぱなし聞きっぱなし」はある種、対話の原点であると言える
- ◆ クロストークで問題の解決や意見の正否を決める「議論 Discussion /Argumentation」では、自分の言いたいことを効果的に主張することに関心が向きがちで、相手の言いたいことをよく理解することや、自分と他の人との語り方や考え方の違いに注意が向けられないことも多い
- ◆ 「対話 Dialogue」においては、自分の意見を認めさせることや早く答え・結論を出すことではなく、多様な他者の語りnarrativeから何かを学び、気づきをえること、自分たちのしていることについての意味や理解を共有し、深めることが重要である

森の中で聴こえる音に耳を澄ますように、いろいろな人の語りに耳を傾け、違いを聞き分けてみよう



<https://www.naturegame.or.jp/field-note/lifestyle/008284.html>

- ◆ 「人文学は役に立つのか？」／現代における人文学の課題（事前学習動画）について、自分の〈問い〉を立て、その〈問い〉を思いついた背景や〈問い〉についての考えを「言いつぱなし聞きっぱなし」形式で話す

現代の人文学における課題について「言いっぱなし聞きっぱなし」の形式で対話を行う（1）

【ワークの進め方】大きなグループ（8~9人程度）で「言いっぱなし聞きっぱなし」形式で対話をします

- （1）最初に発言する人は「私の（呼ばれたい）名前は〇〇です」と自分の名前を言う。他の人はミュートを解除し「〇〇（さん）」と名前を呼ぶ。自分の名前を言った後に「せーの」と言うと他の人が反応しやすい。
- （2）発言者は次に事前学習動画を見て、自分が立ててきた〈問い〉をチャットに書く。
- （3）チャットに書いたら、発言者が「自分の問いは『・・・』です」と〈問い〉を読み上げ、その〈問い〉を考えた理由や背景、〈問い〉についての自分の考えを話す（それぞれの人が、長くて4~5分くらい話すことができる）
- （4）発言者は話し終わったら、次の人を指名する→指名された人は（1）（2）を話して、全員が話し終わるまでこれを続ける

現代の人文学における課題について「言っぱなし聞きっぱなし」の形式で対話を行う（2）

【注意点】

- ・自分の番のときは、テーマや〈問い〉に関係することであれば、何でも自由に話してよい。ただし、今回は他の人が質問できないので、他の人にわかりやすく話すことを心がけること。
- ・順番が回ってきたときに心の準備ができていない場合は「後に回してください」と言ってよい。逆に早めに話す順番を済ませたい人は、挙手してもかまわない。
- ・事前課題として書いてきたものがある場合、それをただ読み上げるのはなるべく避け、他の人に語りかけることを重視してください。
- ・先に話した人の意見への言及、同意や反論・異論を表明することはしない、自分の意見だけを述べてください。
- ・すでに似た内容が話されていてかまいませんので、自分なりの言い方で言ってみてください。
- ・ワーク・対話の性質上、**一般論（誰でも言えるようなこと）や人の意見の引用だけではなく、できるだけあなたからしか聞けないこと（自分の専門や文化背景の具体例）やあなたらしい言い方で話をするようにしてください。**
- ・聴いている時は、今回のワークでは聞き返す（質問）することはできません。ただし、軽くうなづくなど、リアクションがあるほうが、話している人が安心する場合があります。

【このワークのポイント、参加のコツ】

- ・聞く時は聞くこと、話す時は話すことに「集中」する
- ・自分や他人の発言を比較、評価しない。ただし、他人の話聞いた反応として自分の中に起こることにはすこし目を向けられるとよい
- ・自分が話す時は、たくさんのことを準備して話すというより、言いたいことを一つに絞りそのことをきちんと伝えることに集中する
- ・話し方（うまく話せているか、日本語として適切か）ではなく、話す内容に集中する

他のことを考えず、今自分がしていること（聞く、話す）に集中してみましょう

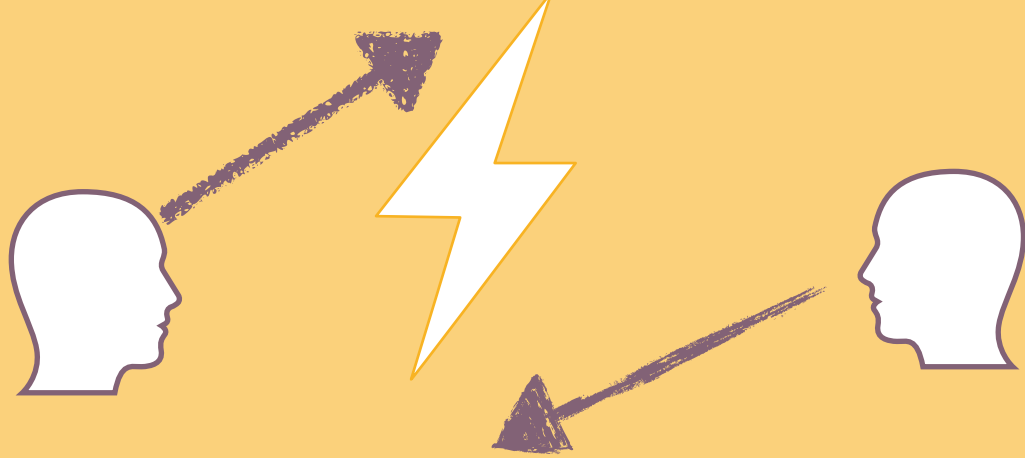


【参考】対話dialogueと議論discussionの違い（1）

議論 Dis-cussion

Dis-cussionの-cussionには、物事を壊すという
意味がある

議論をする人はそれぞれの立場に「ばらばらに
なって」いて、共有するものはない※

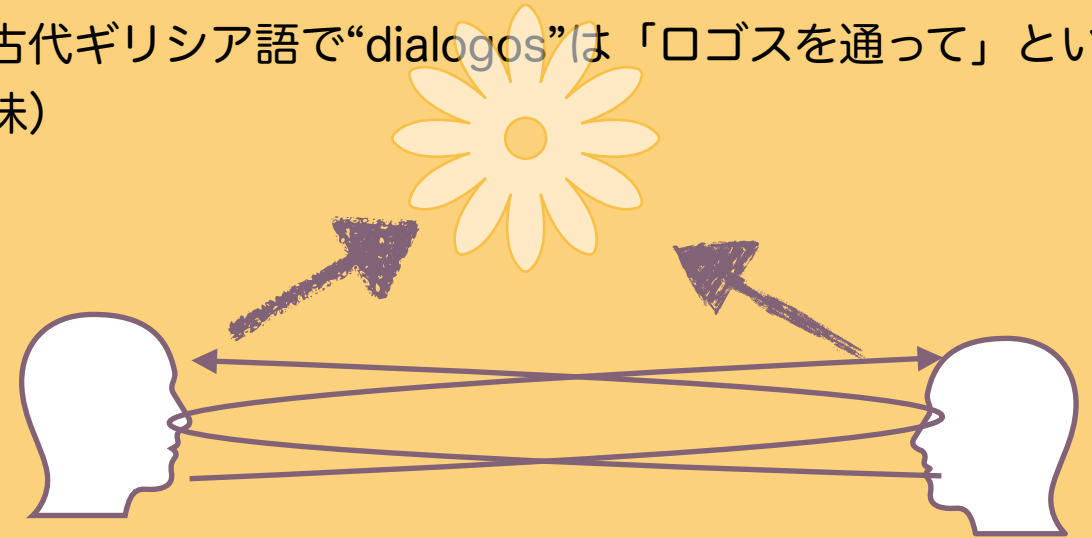


議論においては、たがいの「前提Assumption」
に気づかず、それを押し付け合ったり、それぞれ
がちがう関心で違うことについて話しているた
め、互いの中に共有する部分を作ることがなく、
ばらばらになったまま

対話 Dia-logue (Dia-logos)

Dia-logosとは、あるものとあるものの間（dia）にlogos
（言葉、意味）が「共有されている」という状態である

※古代ギリシア語で“dialogos”は「ロゴスを通して」という
意味)




対話においては、お互いに聴きあい、理解すること、
それぞれが自分の「前提」に気づくことを通じて、そ
れぞれの人の考えの違いはあっても、同じもの
（フォーカス）を見つめ、共有し、話し合う

【参考】対話dialogueと議論discussionの違い（2）

対話と議論は、まったく異なるルール（考え方）や目的のために行われる、種類の異なるゲームであると考えたほうがよい。対話のなかでは、みなさんが慣れている（と思われる）議論とはちがうやり方で探究することに挑戦してみましょう

	議論 Discussion/ Argumentation	対話 Dialogue
参加者	個的・理性的存在	身体、感情をともなう関係的存在
参加のモード	客観的、分析的、論争的	共感—共同的、受容—肯定的
目的	真理の探究、問題解決、合意	相互理解、意味の共有、自己変容
志向	イシュー志向	パーソン志向
知のタイプ	対象知、分離	自己知、包摂
楽しみかた	競技型スポーツ (勝負が問題でスタープレイヤーが有効)	協力型スポーツ／ハイキング・集団登山 (全員が協力し、ともに体験するプロセスが重要)



ふりかえりシートへの記入および
次回の事前学習について

ふりかえりシートの記入・提出について

- ◆ 今回も、今日の対話を振り返って、ふりかえりシートを記入し、提出してください。今回のワークの形式上、実行する場面がない項目（4,8,9）については無記入でも前回と同じ評価でもかまいません
- ◆ 今回は、（3）の項目に、あなたが立ててきた〈問い〉や他の人の〈問い〉や意見を聞いて、気づいたこと、考えたことを書いてください
- ◆ 第5回の事前学習として、テーマ「人文学とデジタル化」についての背景知識を解説した事前学習動画を視聴し、このテーマに関する自分の〈問い〉を考えてきてください
- ◆ クラスのCLEのページに、第2回の対話をもとに作成した他己紹介スプレッドシートのURLが掲載されます。他の受講者を理解するのに参考にしてください。自分の紹介について修正や削除をしてほしい場合は、ティーチングスタッフまで連絡をください。

人文学基礎（人文学と対話）ふりかえりシート 第 回（ 月 日）分

クラス：春学期 曜日 名前（授業でのニックネーム）

【1】（必須）今日の授業（現時点）でのおあなたの態度・状態を振り返って正直に記入してください

		1 自分の心 に正直	2 少し自分の 心について	3 少しできる	4 できる	5 いつも できる
セルフディ アリーティブ ネス （第1回授業 前）	1.自分とは異なる感じ方や考えでも、いきなり批判や否定せず、聞き、理解しようとする 2.自分の語りごとや相手にとってネガティブな点と、相手と自分の意見が違う場合でも、それらを尊重かつ適切な言い方で伝える 3.様々な個性、能力や特性の人が発言しやすい場をつくるために配慮する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
質疑・アクティ ブリスニング 共感 （第2回授業 前、第3回授業 前）	4.自分とは異なる感じ方、考え方を持つ人に対して、相手の考えや自分と他人の違いを知るために、必ず自分の角度から向きをよめる 5.相手の感じ方、考え方について、相手の立場に立って、共感的に理解する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
セルフアウェア ネス	6.他者との対話のなかで、自分が感じ、考えていることや無意識に当たり前のと思っていたこと（前提）にあらためて気づく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
協働の探究 （第1回授業 前、第2回授業 前、第3回授業 前）	7.具体的な事例や複雑な課題について、自分で考える切り口を見つけ、探求のための「問い」を立てる 8.他者の考えたいことや「問い」を理解し、それに応じ、向き合う意見を言う 9.協働の探求が進むように、積極的に新しい論点を出し、対話の進行についての提案をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コミュニティ 意識	10.対話の参加者（クラスのメンバー）に対して、違いがあっても協働して探求することのできる仲間（コミュニティ）だと感じる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【2】（必須）今日の対話（グループワーク）のなかで、自分の対話の態度、能力について気づいたこと、特に（1）の項目の自己評価がよくも悪くも変わった場合には、そう考えた理由を書く。

【3】（授業内で指示があった場合必須）授業の内容のふりかえり、他の人が話したこと、また、グループで話してみて、あなたが気づいたり、考えたこと。

【4】（任意）教員からの回答や対話が必要なこと。